



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会学特講
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	昭和四十年度 修士課程 鈴木教授
Issue Date	1965
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77362
Type	manuscript
File Information	N037_01S40.pdf



NOTE BOOK

Manufactured with best ruled foolscap

社會學特講
昭和四十年度

VOL. _____

倫士課程

鈴木敬授

OX
30



現在における日本における社会変遷の
研究には、それを中心として、
農村の急激な変化を、
門外漢に於ける研究は、
変化は、
新法界の金部、
代化に外ない、
と念いつい、
代化に外ない、

人々との社会も成長して、ある発展の場
我々もあつて、
解が社会学的な、
今の自分とは、
と、
と、
AとBの関係は、
社会を、
社会を、

現代日本の社会変遷の都市化としての
理解

一 都市化の二類型

村落の都市化

村落の二類

前近代の村落と近代村落

前近代社会より近代社会へ

常緑村落より落葉村落へ

成員交替の原理と三種

日本の自然村と近世家族

近代化の内容

個人主義化、自由主義化、

合理主義化、契約主義化、

民主主義化

[illegible]

新屋を建てて
お礼の儀で
お参りした
と云ふ事だ

集團主義
傳統主義
支配者們

愛憎義親令中心

集團「新」的「新」的「新」的

直子家法と夫婦家族

自然村之自治体

君主制之民氣

封建的領土制
統治者已趨於
封建的領土制

代衆者の文藝選

代表
との
任期
制

[illegible]

3 かは、今の私達の身辺にあげ
 世のうつり移り激しさをわれはあ
 にうなづけるであらう。

嘗て日本においでなす年々お茶の葉は
 一枚の田圃の形にその畔道も数石
 多し受たうかなかた
 その村へ生れをきは皆その村で一生を過
 し年々に二五度西四五里先の田舎町
 に用をいに出た以て外には村を去る
 くる事なから
 村の東へあるは行商人がたまたまの
 宿である。
 此れが今では家の奥へ近く立派
 な道路が重なる所へバスが通る
 なる所へ店や工場もあ
 る。
 お茶の葉は、タミサハの町が、
 は二階の汽車にのればデパートや大さな
 商店もあつた。都府がある。村の者は
 新職や買物やサーヒル等に毎日の操
 にそんなところにある。

人との関係も「家」も「家」の「家」の
境を愛化してある。日本の「家」の

前近代社会の残影の消滅といふ
 は本に於ける都市化は二類か、
 有る、よのアメリカなどとは同様に論じ
 かねた、理由は二つある、二類の一つは
 村の都市化と都市の都市
 化である。

口家の梓の解除は都市の都市化に
自然林の跡の解除は自然林の都市化
に関係するところが多い。

同国は去年と今年とは大きく
 変化したといふ。東部の二大勢力の
 対立の司はが去年の比ではなつて
 日本と立派はそれによつて異なつて
 いる。日本の社屋が西向と東向の
 二大派に分れてゐたのが、今
 ややわづらふに日本の新なる日本人
 の自主的な立場にあらはれてゐる。日本人の
 成長は、今より一歩進んで、成長を新
 らしめる。

戦時の日本の急激な社会変化は
国家の枠をばっして経済の国際
的交流、文化関係の国際的交流
他人の世界理解を自由とした
為、一時に世界の波が口々に
おし寄せたのである。何れか、世界
的市場でその力や価値、物を
どう使ったのである。

国家の枠がこんなに取れば、それ
では正に有史以来の事である。

急激な社会変化と云ふのは、
平次である。

口米の場合と同様に口内の古くからの自然村の枠が近年中に次第にくにはいつさ小たつて見逃してはならぬ。昭和三十一年頃から町村合併にともない、新村内の交通路の急激な整備と中央産業の地方通出に伴い各規模、関の設置と末端都市の急増は口民の休眼的労働力を一歩の活用し口民生活の急激な向上を結果した。全口民が皆都市生活に秀がするに及ぶの、

ある。

近頃の傾向は、大都市化の急激な
流行である。日本は
大都市化は二類について考へな
ければならぬ。

才一回 (四〇五、一一、一一三)

「口民知帳簿の口際急激激々」

この社層なる。口際急激激々たる
社会の急激

一般の民は自己の生活の自己中への

印象の現解で断片的で、而もそれ

を整理するに不慣れである。そんな

口民同志の接觸は相互に抗爭あり

りありあり。

社会の急激に処理し、社会の急激に

社会の急激に処理し、社会の急激に

社会の急激に処理し、社会の急激に

社会の急激に処理し、社会の急激に

社会の急激に処理し、社会の急激に

木曜 12月 医科歯科大学

店場

の會堂にあらう一掃し、邦文の理解
と著意を深め（口譯的な）邦文の
より自然にあらう。

そのおりは何よりも社屋を五十年
の口氏の生活と充ちて調査研究
すゝすか必要である。その意味では
学術の實際的研究は現在より幾
の足下の研究が最も（期待される）
を研究である。これは邦文の研究が
それとに終るのみならず、他は社
屋の又他。丁半の時としかいへぬ
のにはお場合があるのは当然であ
る。

⑥

口民衆は意味や價值基準の共同の元。外部には団体不可分の存在、

然し他は知れず保つて置く。然し他は知れず保つて置く。

⑦又人同生活の内に他の口民は理解

され難い微妙な感情的の下のところか容易

に知り得る方面となくない。他の口民に民

に同する研究や他の時代は同する研究が困難

でなく研究が難しくない。

組織的研究

はか。その場合、元々その思想

の起るは現在の足下の研究にあつ

たものであつ、それかとの研究に組織

的であつたといふは構へてあつたといふ

より他はなかつた。日本人は日本語を

用ひるものに日本人の心を具現して

いふ、日本語なる研究は日本語によつて

成るしなすはなす。日本語で日本人

の心で、研究の必要は研究の現

はそれ日本人の研究には縁の

ないものであつた。日本人の研究は日

本人の生活の成長をひいて研究する

此の、又そのうを道いへ世界の秩序を
重配するものある。世界の金の民はな
其のこの世界の秩序による世界は居な
ル其の秩序より其の秩序によるもの
日本における実況がその中、的を
必要としつゝある。

要は他から知るかたの部分を相ある
が大勢は知る得るの下である。知
他から知るかたの知るに誤解や敵対
の要因があるものがある、これは此の
其の正誤解は表現によつて相違の
正し、誤解は誤るゝかある。

の役を果すのが、実証的批評である
ことという。

私の希望では

諸君の社会的な判断力を増大する
に役立つ情報や指導をした。
社会的知識の量を増し、インテリゲン
チアを高め、社会的な思考力を大
きく多く強化してあげたい。

その中に諸君と共に勉強する心構
へである。ふたたび進めたいといは
れ、一組の仲間を歩いて行か
れる。

その力に任せて、私の力が多くある
わけだから、場合によっては思ひ

新が学門を拓けし日の昔より
強ち道に迷ひつゝの場合には私の方
が早く気がつくであらう。
私の方の力をつけよう。是は又一定の才
能によつて指導するのつてなく、私の方の
研鑽に力をつくして、研く指導の形式
であるから、私には私が生用し得る
私の方の力の分限でも利用す
る。

教える人の才に應じて、学生が何
する、その指導をうける、と云ふのは、
一人一人の才の研鑽の進行に應じて

て散るゝ人がゆゑなそれだけの力
をよへゝと云ふ方針を期待してゐ
る作組にはそのセツ 中のものと思ふ
が、この方針の主旨は分つてしまつて
しまふのは残念は、その点でも
その點へを考へた人からいへば、
厭ふところがある。金一清野の
本に拘束されたい點にその注意を
あせ、
研究の成果に從つて方針の變化
は決まらなうと決める。
私の希望は、極めようか、断るの

甲乙を先々實現させ得るものもある。新法の中の大寺院には色々の寺ありかある。然し私の希望としてはせめて大寺院へは昔の新祖の格を現存の都市が期待される。今の日本の大寺院は成程しつゝある。一つの大寺院の格として新法の新法を新の格とした大寺院の格もある。よいはなつた。

#

今の日本生活の變化の概由は、
その一は何か。その一は家族制の變化、

その二は村落制の變化。第一は、
家族より夫婦家族へ、第二は、
前近代型、
近代型、
の村落より、
近代型、
の村落へ、
日本

では都市にも、
近代型、
の村落へ、
日本

型への移行、
近代型、
の村落へ、
日本

の變化、
近代型、
の村落へ、
日本

※

東京、
近代型、
の村落へ、
日本

都市化、
近代型、
の村落へ、
日本

カニ回

日本の経済学的能力を強化す

るに、
近代型、
の村落へ、
日本

である、
近代型、
の村落へ、
日本

を、
近代型、
の村落へ、
日本

今の日本の、
近代型、
の村落へ、
日本

経済学的能力を強化す

から、
近代型、
の村落へ、
日本

に、
近代型、
の村落へ、
日本

日本生活の、
近代型、
の村落へ、
日本

して、
近代型、
の村落へ、
日本

夫婦家族へ、
近代型、
の村落へ、
日本

家族制、
近代型、
の村落へ、
日本

家系種家系族をいふ。欧米人の中口種である。

一宗心中型家族。家毎に秘密の

神主口。同族制の鼓調の力家の

独立性が強視されてゐる。日本では

運命共同体、伸縮性関係は家々

あつて、それ以上でもなくそれ以下でも

あつてゐる。陽燄。宗中心ヒューズ

クラシ、島根の青回村。

人生活の善悪の基視。我々果能

祖業は人生観がなくなつたか。

日本人の物産性の北と、及ばさ

をあらわす。

年次表展同式では道多宗昭は

今世様では日本の高令序が飛
いぬけて高い男勝ちは男勝ち
の高令序が高い。その此令の意
味は何か

田中重ハツツはオチオチの此令の意
味は何か

此令の意は日本の此令を云ふか其の

此令の意的説明を加えてあり

姉妹の同士の対する社会的的

関心は其の必要を研究である

は既に既述の如く述べたことか

この同士の関心は如何に表れるか

高令の関心から解決するものか

けれども、それがその能である。直に家族の中、女性はその地位を高め、その間に、女性、三従の原則に、女性、忠実な男、性、のしもへ、つつかえ、外は、

子の

中に、や、隣、や、イ、タ、リ、チ、の、公、衆、
官、制、制、老、病、の、公、衆、官、制、
に、お、か、か、る、の、に、中、に、は、よく、考、え、
い、る、日、本、も、そ、ん、な、隣、の、た、い、は、
事、を、す、に、は、今、より、イ、タ、リ、チ、
で、から、我、制、か、い、る、の、大、い、い、

中三回

日本の民衆の現時における生活の
変化の主軸になったのは変化の第一は
家族制における変化——直系家族より
夫婦家族へ——であつた。これは口民社
論における質的な変化を意味するとい
ふ。あつても前回の著者へおへんが、
その主軸的変化は地域生活共同
体における変化である。これは口民の
生活協力の形式における変化を意味する。
封鎖的生活共同体より開放的生活
共同体への変化を意味する。私の所
謂自然村よりそれに対応する概念と

してあげしれ行政村への変化である。
自然村もかつて明治初期までは当時の行政村であつたものである。當分の行政村の跟跡が自然村になつてゐる。昔曾ての口民衆合のコンセキが民族となつてある。何時の時代にも暴カルよゝ支持される。行政力は人間社会における最終力の決定をなす。社会の初期に何人かの個人が口衆組織を主張した。その個人同團體の心理学的分析が述べられ、そのついで巨視的な観察は述べていかれた。口衆組織のその後の研究は同

にされてゐたか、政治いふのは暴力は見逃
されてはいない。マルクス・エンゲルス

1968/1590

紙の所謂自然村は太田の掟でいふまで
に~~四~~百年、百姓はその村から移住する

ても他の職業をつくりも禁止されて

いたへある。百姓はその村に生れ^る村で

百姓をしてその村で死ぬるを強力な政治

力のもとに命令づけられていたのである。

幕末まで年貢即ち税金はその村を

単位として徴収が定めてあったが、一人

の労働力の持ち主は村中で同じであり、

次の組中では更に同じであった。百姓

家康の百姓親

より、重税によつて統治者が兵、兵力を
増し中央の力を増進して、漸くは公地
の民の制民が早くなり、大儀の改新以
て、この口を統治の常道であつたと思は
れぬ。戸籍と隣保の制など四面海の口。
百姓より口家の財源を得るには、百
姓を打つるため、農家に課せしめて、か
くは、中世であつた。宋唐のそ業。

百姓は植物の如く土地に定着せしむる
なかつた。

統治者は口民をその口土から出すものとす。
去せし税金と口土がそれと、へんかうである。

口境の線のきいしすは中口の囲禁、日本米口を居
の他、台湾の熊谷。

口境の高さ。口境内の諸国係は完全結
原を形成する。マキーバーのコミュニティーとア
ンエーシヨ。高田博士の金作等。

自然村は成員更新の常態村型。年々同
一成員。然る所如系、五十年で全
成員更新。毎年更新。紅

近代口家の自治体は藩閥型。

代表者の選出、投票。期限。多岐決り。
議決決定。

自然村では傳統的、集团的、威權的
(集团的) (個人主義) (合理主義)

自然村の都市化現象の進行は緩形

直後から 林道制改革

明治三十九年頃から農業革命

大正十一年頃から農民組合

昭和七八年頃より都市工場増

昭和三十一年頃より農村改革の影響
昭和三十四年頃より山村合併
昭和三十四年頃より工業の高成長
急激な都市化

1. 都市化現象 (昭和十五年起)
2. 山村合併
3. 農村改革

今更には農村は農村になりつゝある。
アメリカのカーペンティエーは研究の
歴史

日本農村の急激な生活質変化は特任、道勤、
赤松、松竹、米生活圏の急拡大より。

之より居る人の自由を我自由を并
合現る我の生活である。交易の自由は
代表の程、都市の協力、義徳人達の
お決済の要となる。

才四回請新
六月八日

日本の秋時の急な冷たさの転換を

たすものば
世直系家
物より夫
婦家族

人の家族変化と自身
村より近代に

宋の自治体への地域的協力組織の要は

てあふと、
（た）字
第の、
宣は同
くは界
たか

地域的力の組織の变化

3 12 圖連レた理論を素朴の所定回数に於て

の字の
字の
字の
字の
字の
字の
字の
字の
字の
字の

人村極分類病三類

2、
都市化の
三項
（1）
（2）
（3）

3 成員五類型二類一前近代より近代へ

4
34
改組
鐵基
聯合

生活圈拡大の方向。隣境、村境、□境

民族文化の地帯は皆行政の境のアト

成

成るより更に近代型に變つたのは自然だが、自然の
 への変化するなく、この東京の例でもデトリリーの旧型より
 新型は高層の仲の組織にもある。地域を先鋒にばい
 めたのは大企業、都府下の近代化は大企業
 体の活動からである。
 一、東京は地域組織の解体から、更に新の組織の形成
 一、都市では大企業体の活動から、高層を先鋒にばい
 の高層成長から

一 割りの洞穴の中の人
一口尻島の物々交換

人間の地域共同の基盤

地面占據點，共同的劃付，近鄰，
漸次的擴大，隣人，打落，口家。

一境界を拡大するのは政治の成長

右は政府も公衆の決定力。何時の政令も
百姓と身負ふなり。

茂地 呂 上流の村
の甲

ア
シ
ー
チ
イ

地面占據點數同數付の事業。近隣の

漸次的擴大、隣人、打落、口家。

2、
家族中に主税より職場中へ移るの環境の
都市に及ぶの三項
移居

3 成員を新
型1類1前
代より1代へ

4
34
改組
鐵基
器各

生活圏拡大の方向。隣境、打境、□境

民族文化の地帯は皆行政の境のアト

今回見られるのは都府共同作福(福武)
米口の
都府共同作福と米口農林指導所との
前近経過。米口の農林指導所と同調し
得るのはおもしろいからこのすべは面白いの。
米口の農林指導所

わんが最後回（六、一五）

主旨

金の財には直玉宗族より夫婿宗族（地域的な皇統）よりも行政体（

戦場の中にも戦場同志の間に
新旧の対立

新時代の現性を導くもの

新米教育

組合運動

労働基準局

人権の政治

おれおれの生者と生る者の余暇

おれおれの生る者と生る者の余暇

おれおれの生る者と生る者の余暇

おれおれの生る者と生る者の余暇

おれおれの生る者と生る者の余暇

都市には戦場の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

階層の階層構成が

新學期

前學期に比べて現在の下の社会も

変化の質の仕向について述べる。

日本の社会は今當てない大変革大困難

の渦中にある。この変革の方向は色々

の材料をもっているが、見通しがたつてゐる一つは

人が皆万人が万人を敵とする社会になりつゝ

あつてゐる。父は子を仇せず、子は父を仇せず

夫は妻を仇せず、妻は夫を仇せず、友人は互の仇

の存在を認め、並に果敢的に戦つてゐる一人一人に

孤独を感ぜ、仇い得るは自己であると思

ふ完全孤独の境に至つてゐるであらう。

上下の対立の社会より、横の分断の社会へ。

階級階級組の上下の対立、世代の対立、

傳統の対立、我利我利の他地域対立、

横の対立は同僚、友人の対立

仇い得るは自分の身、

グループの中の現代のグループの中の孤独者。

電車の中の孤独者。

万人は万人の敵の社会。

参事の家の中の人は、その日本人も

敵。

万人の敵の社会の孤独者に人は耐え

なければならぬか。

この孤独の中の、代案な二人の協力。

三人の団結、千人の団結は天下をとるか。

出来よの団体武勇。

のホッブズのレハイアサンの考へでは万人が一人
の敵の社会では平和を望む人の自然に答
へみには陽力を巨人的力を以て怪物を
造り一人が虐へあか^る常力によつて一人
一人を屈服せしめるものを作り上げる事が
必要である。それは万人が自分のもつ武
力を打ち出して折衷^{をい}約して作^を契^を約^をルによつて
作り出す事がある。それが国家である。
国家は人が作ったものではないが、ある人の家は
他人をその思ふ通りに支配する。そして平和な
社会生活を保障する事がある。

然し今日では日本はあり他人を支配す。

ハイアサンの活動がある。あまにちも抑

えず万人が人なり。就して一死をにたりつ。あ

れハイアサンの活動が世界中にわたるのか、人同

かつおかしなところのか、ハイアサンの面影、

人は万人を敵とす。死をにたりつ。あま

人同士の内争が何が多なり。実家

法のお徳が現はれ、いささともある。あ

らうが、然し様々人の関係の細作が

文明の上昇と共に進み、いささともある。あ

理由がある。あまにち。文化は合

理の過程である。あまにち。愛情

然し

生活を圖しては合理
その他の生活を圖しては愛情・愛憎か

ゆゑに其のいか

法律は人の生活の合理化に近む
然し法律は生活の合理化は合理的の成否と
いふ生活の生活に適用するものは合理的な
いか、その他の生活も合理的と非合理的によつて
の法律するものは合理的である。
法律は生活に圖しての手段と用さるべきもの
その他の人の生活は愛情によつて現れるべき
ものである。

を表現するが文化の上昇には必要で
あよと云ふ時には同じが残してあろう。
生活に圖しては合理、その他の生活
に圖しては愛情が文化と共に存する
この二は同一の力。
都市におけるインテリゲンチヤ、農村におけ
る清とユイ。
の爲に如何に圖
程（甘）ず

ヅヤマ

女山ー洞^{おほ}山^いがある。ミカケ石ーツコー石

山の中^いの山の中^いに村長の家^いがある。

大塚ーが女山のお屋敷の中^いにある。

王

清水^お寺ーも女山の中^いにある。

ヤマト^お山^い（^{ヤマト}）ー郡名

山門^い郡^い東山村の女山